

令和6年5月21日臨時部長会議 会議録（要旨）

◇日 時 令和6年5月21日（火） 午前8時35分から午前9時27分まで
◇場 所 市役所第一庁舎5階 庁議室
◇出席者 市長、西澤副市長、松山副市長、教育長、上下水道事業管理者、総務部長、企画政策部長、財政部長、地域・市民生活部長、保健福祉部長、保健所長、こども未来部長、環境部長、経済産業振興部長、観光文化部長、スポーツ部長、農林部長、建設部長、都市整備部長、会計局長、教育次長（行政）、教育次長（教育）（代）、上下水道局長、消防局長、議会事務局長（代）、危機管理防災監及び関係課職員

◇会議内容

1 協議事項

（1）屋代須坂線の運行見直しについて（企画政策部）

標記事項について、企画政策部長から説明した。（資料1参照）

○質疑

〔経済産業振興部長〕この見直しにより、日曜運休の解消につなげていくことができるのか。

〔交通政策課〕現状を申し上げますと、令和5年度2月補正で予算化した「バス運転手確保緊急支援事業」により、現在長電バスで2名、アルピコ交通で1名の運転手が採用された。また、補助制度を活用して、環境を整備することで、職場を離れるという方も少しずつ抑えられてきていると報告を受けている。ただ、日曜運休の解消に向けた人数の確保については、まだ完全な見通しは立っていない状況である。市民の足を早急に確保する必要があることから、完全な減便解消には至らないが、主要路線のいくつかの路線だけでも解消できないか事業者と調整をしている。

〔企画政策部長〕地域公共交通会議までには調整が必要かと思うが、できる限り日曜日に運行できるように事業者と協議を進めていきたい。

〔松山副市長〕あらためて確認するが、この見直しにより、日曜日の運休が解消されるという認識で良いか。

〔交通政策課〕確実に日曜運休を解消できる状態には至っていないが、市・事業者共に新たな運転手の確保に向けて取り組んでおり、少しでも運転手が増えてくれば、8月を目途に日曜運休を解消できないか調整はしているが、まだお答えできる状況にはない。

〔企画政策部長〕いずれにしても、引き続き協議を続けていきたいと思っている。

○今後の方向性

原案を了承

（2）長野市市税条例及び長野市都市計画税条例の一部改正について（財政部）

標記事項について、財政部長から説明した。（資料2参照）

○質疑なし

○今後の方向性

原案を了承

（3）プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の施行に伴う対応について（環境部）

標記事項について、環境部長から説明した。（資料3参照）

○質疑

〔地域・市民生活部長〕モデル地区はどこの地区を見込んでいるのか。

[環境部長] モデル地区は豊野地区で、事前説明等を済ませ、了承をいただいている。

[会計局長] LINEによるごみ分別チャットボットの改修や費用は考えているのか。

[環境部長] 具体的に改修時期や費用について申し上げることはできないが、視野に入れており、対応したいと思っている。

[財政部長] 資源の再商品化による売却益はあるのか。

[生活環境課] 委託事業であるため売却益はない。

[財政部長] 今後、利益を生み出す事象も含めて技術の開発等アンテナを張って、注視していただきたい。

[企画政策部長] 努力義務とあるが、全国的な取組はどのような傾向にあるのか。

[環境部長] この分別収集を行わない場合、これからごみ処理施設を作る時に交付金の対象にならない。長野市としても、法施行から時間が経過してしまうと制度改正の時期を逸してしまう。努力義務ではあるが、各自治体でこの分別収集に対応する方向である。

○今後の方向性

原案を了承

2 一括議論・一括承認事項

(1) 令和6年6月市議会定例会提出議案について（総務部）

標記事項について、総務部長の説明省略。（資料4参照）

○質疑なし

(2) 令和6年度6月補正予算（案）について（財政部）

標記事項について、財政部長の説明省略。（資料5参照）

○質疑なし

(3) 令和5年度3月専決補正予算について（財政部）

標記事項について、財政部長の説明省略。（資料6参照）

○質疑なし

○今後の方向性

(1)、(2)、(3) 原案を了承

3 その他

(1) ながのこども館の運営について（都市整備部）

標記事項について、都市整備部長から説明した。（資料7参照）

○質疑

[財政部長] 開館後は状況を適宜指定管理者と共有して、試行錯誤を重ねながら、やっていくことが重要だと思うので、指定管理者との打ち合わせを随時行って欲しい。決して指定管理者任せにしないようにしていただきたい。

[都市整備部長] 指定管理者任せにするのではなく、オープン状況についても市職員がながのこども館に入って状況をしっかり見ながら、オペレーションをどうしていくのかなど、その時の状況で判断をしていかなければいけないと思っている。職員が足を運び、状況を見ながら、しっかり対応していきたい。

以上